

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は6ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立桜修館中等教育学校

次の **文章A** ・ **文章B** と **資料1** ・ **資料2** を読んで、あとの問題に答えなさい。

(* 印の付いている言葉には、文章のあとに〈言葉の説明〉があります。)

文章A

次の文章は、* 学校司書の学校図書館に対する共通の思いを、実践の報告や講演記録から筆者がまとめたものである。

みんなに共通なもの

生徒たちの読書について

- ・ 生徒たち一人ひとりには、それぞれに発達の可能性を持っている。つまり生徒たちは、大人と同じように、それぞれ一人の人間として一所懸命に生きている。
- ・ 子どもの時代は短い。今こそ、その子たちにとっての「適切な本」に触れてもらいたい。
- ・ 何かを深く知りたいという気持ちは、その本人の中から生まれるのであって、教え込むものではない。その気持ちを納得させる「適切な本」と出会い、「学ぶ楽しさ」を知るのである。

学校図書館とは

- ・ 「学ぶ楽しさ」を見つげる感性や力、機会は、一人ひとり違っている。それを生徒たちが見つげるために多様な本を集め、内容に従ってグループを作り、本棚に並べ、生徒たちの「こんな本があるん

だ！ 読んでみよう」という出会いを用意する。それが図書館。

一つの学校図書館は小さい。それでも生徒たちに、人が築いてきた知識の世界への入り口を提供したい。教科書は、読者の知識を深めるためにその知識の世界を解説する。その働きを一人ひとりに適切な本によって補い、理解を助けるのが図書館の仕事。

それを上手に使うためには、「資料や情報との付き合い方」を知る必要がある。図書館は先生との連絡を密にして、必要な資料の見つけ方や、使い方、考え方、まとめ方、伝え方、そして人の考えを聞いて考え直すことなどを解説し、生徒一人ひとりがその「付き合い方」を身につけるように努力する。

そういう理解を深めるのには、一人ひとりの生徒の好奇心の働きが大きい。先生は、その好奇心に働きかけようとして授業を組み立てる。図書館は、^① その先生の努力をさまざまな資料の提供によって支え、また本自身が語りかけるように工夫をする。生徒たちはそういう授業と図書館での本との付き合いによって、考えたり、納得したり、心を揺さぶられたりしながら、知識を身につけ、感覚を鋭敏にし、考え方を深め、そして心を豊かにする。そういう図書館に向かうための「図書館のちかい」なのだ。

司書さんたちはこういう考え方を持って、学校図書館で生徒と先生のために働いてきました。毎日の読書についての相談や選書、レファレンス・サービス、先生からの教材の相談、図書館を使っでの学習

計画の立案と実施などを通して、生徒一人ひとりの気持ちに働きかけ
てきたのです。

(竹内 愼「生きるための図書館―一人ひとりのために」による)

〈言葉の説明〉

学校司書……学校の図書館で本の整理や貸し出しをする人。

鋭敏……感覚がするどいこと。

図書館のちかい……中国地方のある市の小学校図書館で筆者が

見つけた掲示。内容は左の通り。

としょかんのちかい

- (一) みんながよみたいほんをよめるようにじゅんびします。
- (二) みんながしらべたいことを、本やしりょうでおうえんし
ます。

- (三) だれがどんなほんをよんでいるか、ひみつをまもります。
としょかんは、こんなことをがんばったり、きをつけます。

選書……目的に合わせて本を選ぶこと。

レファレンス・サービス……図書館司書が利用者の調べものや

探しものを支援すること。

今、日本は「創造性の時代」に入った、と私は感じています。

高度経済成長を経て、この国では日常生活や社会活動を営むためのシステムが整備されてきました。その結果、たいていのことは定められたマニュアルに従うか、前例を参考にすれば解決できる、いわば「マニュアルの時代」に突入しました。このような社会では、前例を重んじ、マニュアルとルールをきちんと学ぶことで、効率良く生き抜くことができます。マニュアルを逸脱することは非効率なことだったのです。

しかし、現在の日本では、経済・政治・医療・産業などあらゆる分野で、これまでのマニュアルでは解決できない問題が山積しています。マニュアルが古くなってしまったのです。こうした時代に、従来のシステムやルールに拘泥するのはむしろ非効率です。

マニュアルだけでは乗り切れない新しい社会の状況に対応するためには、本当の意味での「考える力」を鍛え、「創造する力」を身につけることが必要です。

ここでいう「考える力」とは、単に与えられた問題を解く能力ではありません。他の人が疑問に感じないところ、常識と考えているところに問題点を見出し、根本にまでさかのぼって問題の本質を突き止める能力です。諦めずに考え続けることができる能力と言ってもいいかもしれません。このような能力は、30分考えても分からないければ次の問題に移れという訓練をしていると身につかないことが分

かりますね。それとは逆に、納得がいくまでとことん考え続ける粘り強さが必要なのです。

さて、そのようにして根本にまでさかのぼった問題には、あらかじめ用意された一通りに決まった答えなどありません。この時点では、答えは存在しないのです。この答えのないところにあなた独自の答えを編み出すことができる能力こそが、ここでいう「創造する力」なのです。「創造する力」を持った2人の人が同じ問題に取り組むと、二通りの「正解」が生まれるという点がポイントです。ファッションデザイナーを想像すると分かりやすいかもしれません。

つまり、本書で議論する「考える力」とは問題の本質を見極める力であり、「創造する力」とはほかの人が意識していない問題を見出しそれを独自の方法で解決に至るまでやり遂げる能力です。*アインシュタインに備わっていたのは、これら2つの力なのです。

そんな芸当は、*アインシュタインのような生まれつきの天才だけができることだと思われるかもしれませんが、しかし、そうではないのです。私のこれまでの教育経験から、「考える力」と「創造する力」は、意識的な訓練をすることによってだれでも身につけることができると断言できます。

「考える力」は「マニュアル力」の基礎の上に成り立ち、「創造する力」は「考える力」がなくては成立しません。特に、「考える力」と「創造する力」は表裏一体の能力なので、これらをまとめて議論するときには「自ら考え、創造する力」ということにします。

(上田正仁「東大物理学者が教える「考える力」の鍛え方

想定外の時代を生き抜くためのヒント」による)

〈言葉の説明〉

マニュアル……手引き書。説明書。

逸脱……本すじからそれること。

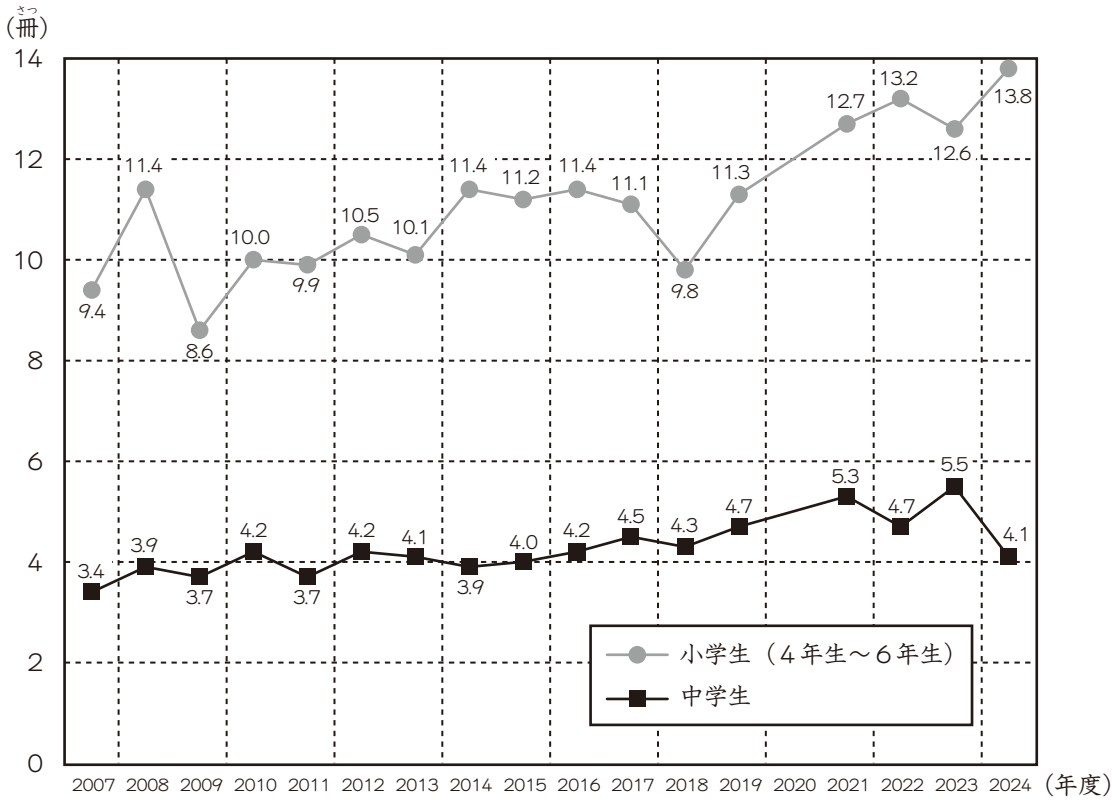
拘泥……こだわること。

アインシュタイン……ドイツ生まれの物理学者。

芸当……ふつうではできないようなわざ。

資料1

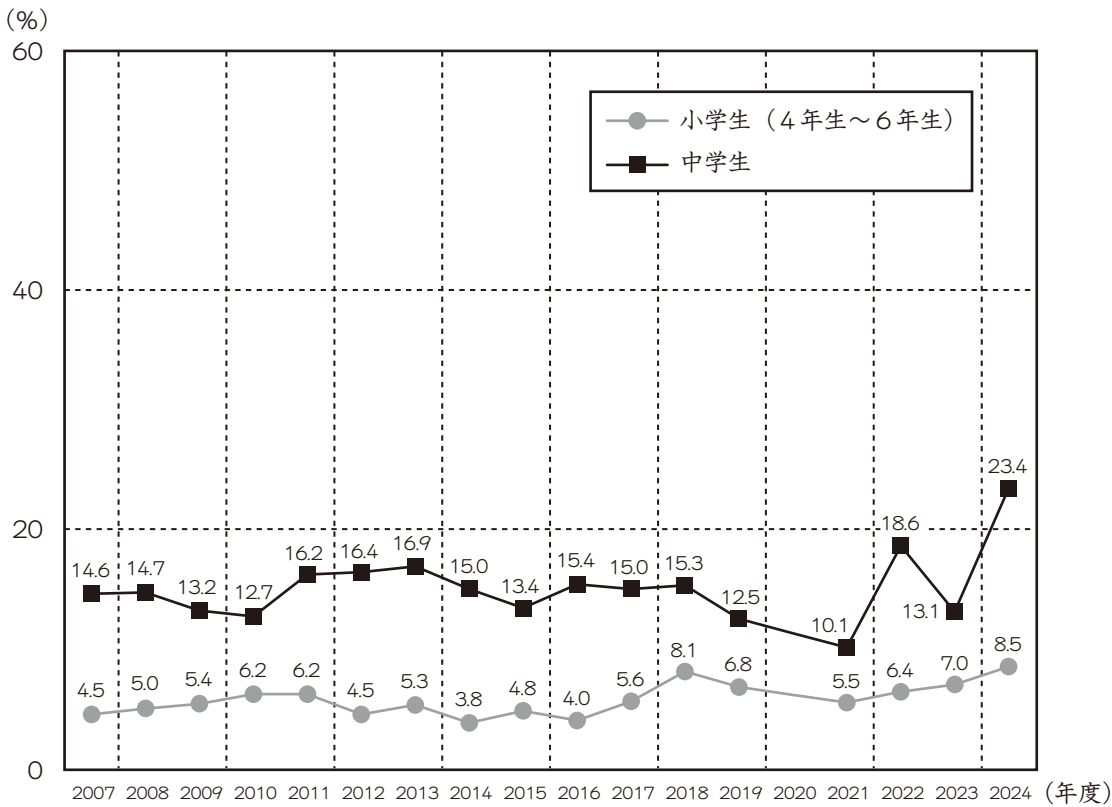
2007年度から2024年度までの、全国の
小中学生における一か月間の平均読書冊数の
推移



※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、調査未実施
(公益社団法人全国学校図書館協議会「第69回学校読書調査」より作成)

資料2

2007年度から2024年度までの、全国の
小中学生における不読率（一か月に一冊も本を
読まなかった者の割合）の推移



※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、調査未実施
(公益社団法人全国学校図書館協議会「第69回学校読書調査」より作成)

〔問題1〕

文章A

①に、その先生の努力とありますが、それはどのような努力ですか。本文中の言葉を用いて三十字以上四十字以内で説明しましょう。

〔問題2〕

文章B

②に、「自ら考え、創造する力」とありますが、それはどのような力ですか。本文中の言葉を用いて五十字以上六十五字以内で説明しましょう。

〔問題3〕

資料1

または資料2を読んで、中学生の読書状況

についてどのような問題点が考えられますか。また、あなたが中学校の図書委員になったとして、その問題点を解決するためにどのように取り組みますか。四百字以上五百字以内で自分の考えをまとめましょう。第一段落には、資料1 または資料2 から読み取った問題点を書きましよう。第二段落には文章A または文章B をふまえて、それを解決するための方法について書きましよう。ただし、次の（書き方のきまり）にしたがいましよう。

（書き方のきまり）

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。会話などを
入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 、や。や」などの記号が行の先頭に来るときには、前の行の
最後の字と同じますめに書きます。（ますめの下に書いてもかま
いません。）
- 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。
この場合、「。で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直
します。